

長岡京 市民まちづくりセッション

～ 20年後の環境未来へ～

結果報告書 (抄)



平成24年3月
長岡京市

目 次

1. 実施概要	1
2. 実施結果の概要	5
3. 職員ワーキングチームによる検証と評価	6

1. 実施概要

(1) 参加者の募集

平成 23 年 8 月から 9 月にかけて実施した「長岡京市の環境づくりのための市民意識調査」の調査票配布の機会を生かして、平成 23 年 8 月 1 日現在の長岡京市住民基本台帳から無作為抽出した 16 歳以上の市民 2,000 名に対し、「長岡京 市民まちづくりセッション」と題した市民討議会の応募案内を送付した。

案内には、参加者名簿登録承諾書及び参加希望表明書の書式を掲載し、必要事項記入のうえ郵便により返送してもらうことで参加者名簿登録への応諾者を得た。

応諾者 69 名より、性・年代のバランスを考慮した抽選によって 40 名を参加者として選定した。



(2) 開催概要

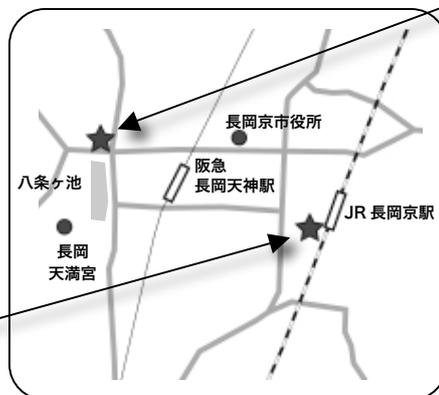
平成 23 年 10 月 15 日 (土) 及び 16 日 (日) の日程で開催し、参加者には 2 日間での 6,000 円の報酬を支払うこととした。

1 日目

10 月 15 日 (土)

**13 時 30 分から
18 時 30 分頃まで**

中央生涯学習センター
創作室 1 (パンピオ 1 番館 6 階)



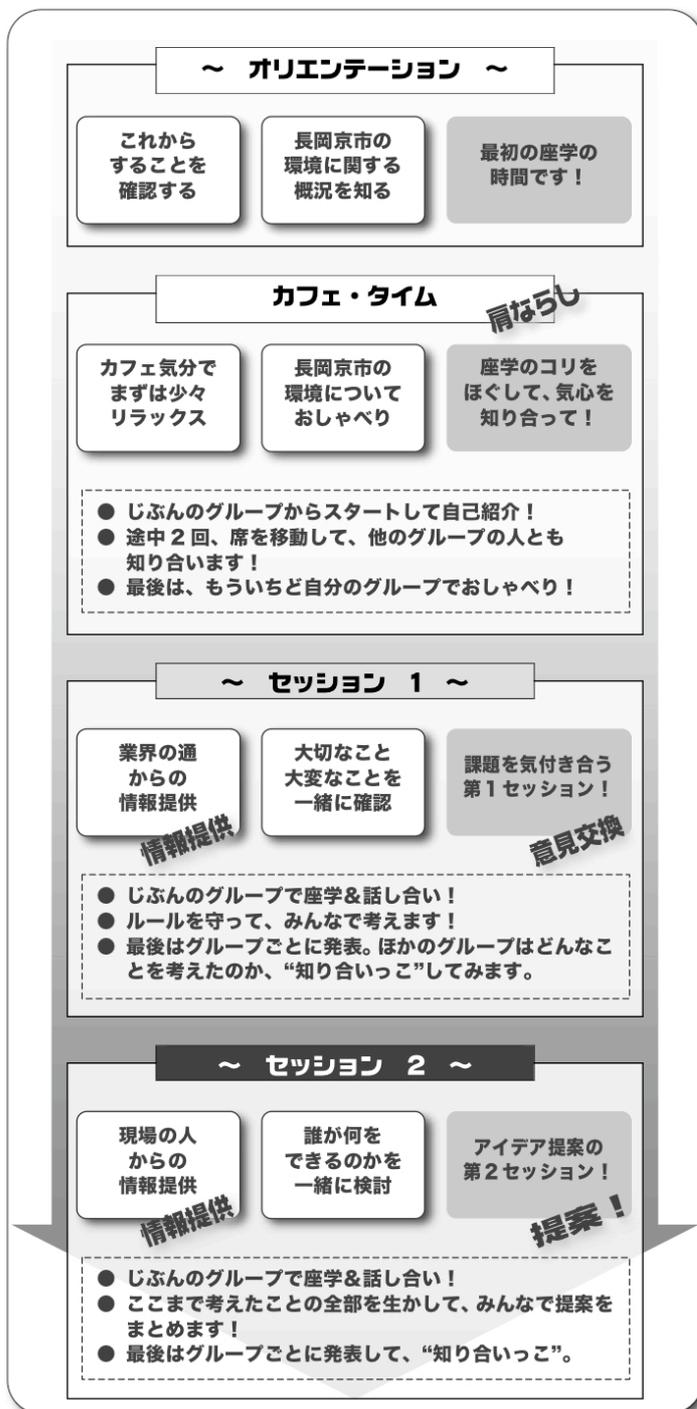
2 日目

10 月 16 日 (日)

**9 時 30 分から
16 時 30 分頃まで**

長岡京市立図書館
3 階 大会議室

(3) プログラムの概要



左記のプログラムにより実施した。

オリエンテーションのあと、「カフェ・タイム」としてワールド・カフェの方式を活用し、「長岡京市の『環境』よいところ・気になるところについて、語り合おう！」のテーマで対話の時間を設けた。

(情報提供者)

- ・ 京都府立大学公共政策学部公共政策学科 3 年生奥谷ゼミの皆さん

続いて、アンケート調査結果などを参考に、以下のテーマ設定のもとで討議を行った。

テーマ①: 長岡京市の緑を守ること、つくること

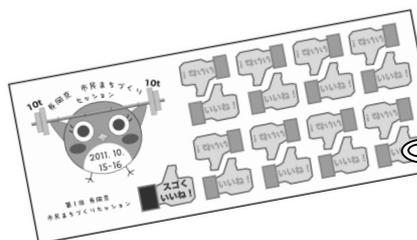
テーマ②: 長岡京市の温暖化対策

まず、「セッション 1」として、学識経験者や関連機関職員、市職員からの情報提供を受けて、課題をつかむためのグループワークを行った。

(情報提供者)

- ・ 京都府立大学公共政策学部公共政策学科 准教授奥谷三穂氏
- ・ 西山森林整備推進協議会
- ・ 財団法人長岡京市緑の協会
- ・ 地球温暖化防止活動推進センター
- ・ 市職員（環境政策監、公園緑地課）

その後、「セッション 2」として、課題を踏まえての取り組み提案を行って相互に発表し、成果を得た。



各自で気に入った意見やアイデアにシールを貼りました。

15日
(土)

肩ならし▶▶課題をつかむ

～ オリエンテーション ～

13:30 (10分) セッションは、一期一会の心！
小田市長からの開会宣言！

13:40 (10分) 趣旨説明、
スケジュール・基本ルールの説明

13:50 (30分) ちょっと知っとく・タイム！
①長岡京は、こんなまち（市の職員より）
②府立大生による、長岡京 環境レポート！

14:20 (60分) カフェ・タイム！
お茶とお菓子と自己紹介！

中 休 み

～ セッション 1-1 ～

15:30 (45分) よく知っとく・タイム！
長岡京の緑を守る・つくる取り組み

16:15 (60分) 文殊の知恵・タイム！
何がタイセツ？ 何がタイヘン？

17:15 (15分) 諸 連 絡

17:30 (60分) 懇親会（自由参加です）

16日
(日)

課題をつかむ▶▶提案する

9:30 (10分) 諸 連 絡

～ セッション 1-2 ～

9:40 (30分) よく知っとく・タイム！
長岡京と地球温暖化って？

中 休 み

10:20 (60分) 文殊の知恵・タイム！
何がタイセツ？ 何がタイヘン？

～ セッション 2 ～

11:20 (40分) もっと知っとく・タイム！
長岡京の緑を守る・つくる 実践レポート！

12:00 (60分) お昼休み

13:00 (30分) もっと知っとく・タイム！
長岡京の温暖化対策 実践レポート！

13:30 (120分) 文殊の知恵・タイム！
20年後の環境未来へ、提案！

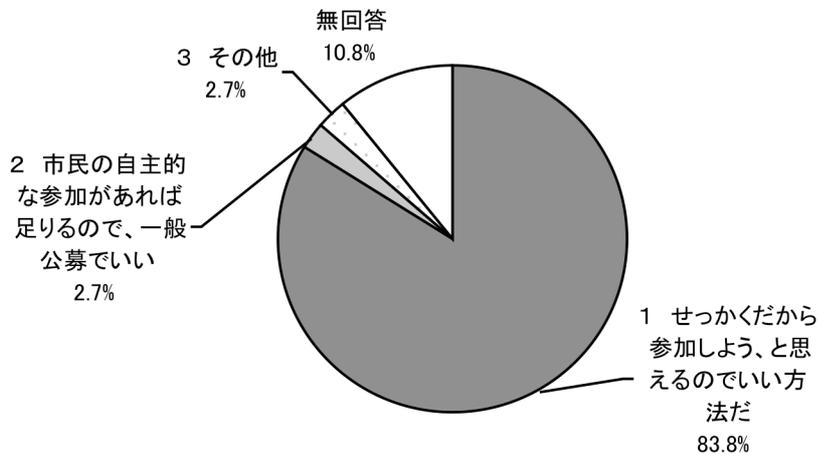
15:30 (45分) 諸連絡（報酬お支払い等）

16:15 (20分) まとめと閉会



(4) 参加者アンケート

プログラム終了後、参加者に対してアンケート調査を実施した。37 件の回答が得られ、無作為抽出の参加者募集の手法についてなど、約 8 割の参加者から肯定的な回答が寄せられた。



今後の「長岡京 市民まちづくりセッション」のためのアンケート！

ご参加のみなさん、おつかれさまでした！最後に、今回の「長岡京 市民まちづくりセッション」を終えての感想など、ぜひ、お聞かせください！

「参加者名簿」に登録しようと思ったのは？

1 検討テーマに興味があった
2 市民参加の新しい取組みに興味があった
3 長岡京市の「環境」に興味があった
4 日ごろからまちづくりに興味があった
5 報酬があった
6 その他 ()

質問1 当てはまる番号すべてに○

それぞれ、当てはまる番号1つずつに○

ご参加になってみて、いかがでした？

セッションの日程	1 長い	2 ちょうどいい	3 短い
提供情報の量	1 多い	2 ちょうどいい	3 少ない
提供情報の内容	1 簡単	2 ちょうどいい	3 難しい
グループの人数	1 多い	2 ちょうどいい	3 少ない
グループの固定	1 よい	2 ふつう	3 よくない
発言のしやすさ	1 しやすい	2 ふつう	3 しにくい
提案、検討の時間	1 長い	2 ちょうどいい	3 短い
全体の満足度	1 満足	2 ふつう	3 不満

長岡京初の「無作為抽出」の参加者募集は？

1 せっかくだから参加しよう、と思えるのでいい方法だ
2 市民の自主的な参加があれば足りるので、一般公募でいい
3 その他 ()

質問3 当てはまる番号1つに○

「参加報酬」は、あったほうがいい？

1 あったほうがいい
2 なくてもいい
3 その他 ()

質問4 当てはまる番号1つに○

「次回」は、参加したい？

1 日程など都合があれば参加したい
2 関心があるテーマなら参加したい
3 参加したいと思わない
4 その他 ()

質問5 当てはまる番号1つに○

あなたの性別は？ (1つに○)

1 女性 2 男性

あなたの年代は？ (1つに○)

1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代
5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代 8 80歳代以上

ちょっとだけ、教えてください

質問は以上です。ほかに、お気づきの点、ご意見・ご感想などあれば、なんでもお寄せください！

2. 実施結果の概要

(1) 緑を守る・つくるための提案

西山・里山の保全について、手入れなど維持保全、人を呼べる環境としての利活用に係る課題を踏まえた提案がなされた。市民がボランティア活動を企画すること、事業者による財政支援やマンパワー提供の仕組みをつくること、行政による企業顕彰やボランティア企画提案などを行うこと、地権者メリットを考慮した保全と整備の推進などについて言及されている。



竹林の整備・活用について、放置竹林対策の提案として、竹林の整備と竹の利活用における事業性の創出のため、竹酢液や竹チップなど量的消費が見込める商材の普及や、その他の物産への水平展開などについて提案があった。

その他、家庭や地域、あるいは、公共空間における緑の保全と創出に関しては、広告収入を財源として花苗やプランター等を確保し、継続的に展開できる事業モデルの確立について提案があったほか、緑を守る心を育てるために、環境づくりに係るボランティア活動や里山学校の取り組みを、子どもたちの学びに対して積極的に活用していくこと、地産地消を進めて生活に身近な農業を守っていくこと、良好な河川環境を地域ぐるみでつくっていくことなどが提案された。

(2) 温暖化対策の提案

エコライフの推進について、日常生活や事業活動における節電など、省エネ・省資源に係る各種の取り組みをいっそう進めていくことについて、市民等の行動に係る多様な提案された。とりわけ、正しい知識を情報として市民に伝えることの重要性が指摘されたところである。

脱自動車依存についても多くの意見が集まり、徒歩・自転車利用の促進や公共交通機関の利用促進、エコカーの採用など、多岐にわたる実践について提案があった。

その他、自然エネルギー利用や温暖化について学ぶ機会づくりなどについても、促進を図るための提案があった。



3. 職員ワーキングチームによる検証と評価

「長岡京 市民まちづくりセッション」の検証と評価（抄）

1. プログラムについて

当日に初めて顔を合わせ、2日間で話をしてもらおうという設定であることから、話しやすい雰囲気を早く作れるようプログラムを工夫した。ワールドカフェ（※）の手法を取り入れ、カフェコーナーを設けるなど参加者がリラックスでき、話し合いがスムーズに行えたことは評価できる。ただし、プログラムの設計や時間配分、テーマの設定、情報提供の内容など課題は多く残った。

※ ワールドカフェ：ワークショップの手法のひとつ。いくつかの4～5人の小グループが、メンバーを入れ替えながら、自由に意見交換をしていくもの。その会場全体が意見を共有するために用いられることが多い。お茶を飲みながらカフェのような雰囲気、自由に意見が言えることが特長。

(1) テーマ設定

評価できる点	<ul style="list-style-type: none">・ 「緑」に関しては、参加者にとって関心が高いテーマで、提案や課題も出やすかった。
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none">・ テーマを2つ（①緑の保全・緑の創出②温暖化対策）に分け、課題を考えたものの、提案する際に領域が重複したところもあり、やりにくかった。・ 時間が少ない中、テーマが多かった。・ 身近に考えられるテーマか、そうでないかで、提案の内容が変わる。テーマ設定には十分な考慮が必要。

(2) プログラム設計

評価できる点	<ul style="list-style-type: none">・ ワールドカフェ形式でアイスブレイク（※）を行った点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none">・ 課題から提案までの流れがスムーズにいくようなプログラムの検討

※ アイスブレイク：会議やグループワークの前に、対面の参加者同士の抵抗感をなくすために行うコミュニケーション促進のための2人以上で行うグループワークの総称。

(3) 時間配分

評価できる点	・ 参加者が負担感を持たない程度の日程（1.5日）で、アイスブレイクや休憩コーナーなどを工夫した点
改善が必要な点	・ 話し合いの時間が短かったことで、課題から提案に向けて考える時間が少なく、最終的な提案内容が達成感に欠ける結果となった点

(4) 話し合いの体制

評価できる点	・ 参加者の積極的な意識により、徐々にファシリテーター（※）の補助なく、スムーズに話し合いが進行した点 ・ メンバーの固定化
改善が必要な点	・ 人数と時間のバランスが悪かった点

※ ファシリテーター：ワークショップなどにおいて、中立な立場を保ちながら話し合いに介入し、合意形成や相互理解をうながし、スムーズで深い議論がなされるよう調整する役割を負った人。

(5) 情報提供

評価できる点	・ 行政の事業について理解を深めてもらえた点 ・ 学識経験者や地球温暖化防止活動推進センターの情報提供は、市民の理解を促そうとする内容で分かりやすかった点 ・ 地球温暖化防止活動推進センターからは、先進事例紹介など、新たな視点の情報提供があり、提案の参考になる情報が多かった点
改善が必要な点	・ 行政による情報提供は、「やっています」という内容ばかりで、課題の指摘が少なかった点 ・ 1日目と2日目の情報提供が重複していた点

(6) 話し合いの内容

評価できる点	・ 環境活動を地域活性化に活用する取り組み等、具体的な提案があった点
改善が必要な点	・ テーマが大まかであったため、提案が抽象的になった点

(7) 投票<いいね！シール>

評価できる点	・ 関心の濃淡が読み取れるツールとなった点
改善が必要な点	・ 「課題出し」の模造紙を投票対象としなかった点

(8) 意見の反映

評価できる点	・ 付せんの利用や「いいね！」シールにより、意見を確認しやすく、関心の濃淡も読み取れた点
改善が必要な点	・ まちづくりセッションの成果を参加者に返すための準備をしていなかった点

◆課題解決の方向性

課題として、特に重要と思われるのが、「テーマ設定」と「情報提供」である。「テーマ設定」については、より具体的な内容に絞るべきである。テーマとなる「質問」に対して十分な「提案」ができれば、参加者の話し合いの満足度も大きく変わってくる。計画策定など、幅広い課題がある際にはテーマを絞ることが難しいかもしれないが、「重点テーマ」における取組みで、新たなアイデアが必要な部分などに活かすことが可能ではないかと考える。できれば、段階を踏んで、アイデアを出してもらいやすい丁寧な問い方をすれば、具体的に取組みに活かせる提案が出ることが期待できる。

「情報提供」については、十分に内容を調整して、課題や事例などを織り交ぜるとともに、市民に関心の高い具体的な市の取組みについては押さえておく必要がある。（今回であれば“にそと”関係）また質疑の時間を取る等して、聞きたいことをすべて聞ければ良いが、時間調整が難しくなる可能性もあるため、パネルディスカッション風にコーディネーター役（重要！）の人が、うまく話を引き出すというやり方も考えられる。また事前資料を配布してもよい。（参加者に負担感がない程度のもの）

また、意見の反映については、参加者・実施者双方の満足度にも大きく関わるため、話し合いの中心となった主な意見（投票等で把握する）を施策に活かすための検討をし、参加者にフィードバックするための仕組みを準備しておくことが必要である。

2. 運営について

まちづくりセッションの運営は、事務局である環境政策監を中心に、セッションの企画を担ったワーキングチームの職員とコンサルタントで行った。

ただし、実施までの時間が短かったことや、計画策定に係る内容であることから、当日以外はほぼ事務局で事務を行うこととなるので、十分な時間が必要である。当日は、実質 16 名のスタッフで役割分担をした。余裕はないが実施可能な人数である。

(1) 企画・運営組織、スタッフ

評価できる点	・ 職員で工夫して企画・運営できた点
改善が必要な点	・ 当日のスタッフの役割

(2) スケジュール

評価できる点	—
改善が必要な点	・ 準備にかかるのが遅かった点

<スケジュールの概要>

日程	内容
7月22日	環境基本計画改定ワーキングチーム発足
7月31日	バンビオ等会場予約
8月4日	電算室にて無作為抽出
8月16日	第2回環境基本計画改定ワーキング実施
8月19日	アンケート・まちづくりセッション参加依頼書送付
9月2日	アンケート・まちづくりセッション督促状送付
9月6日	第3回環境基本計画改定ワーキング実施
9月16日	アンケート・まちづくりセッション参加承諾締切
9月中旬～	情報提供依頼
9月21日	まちづくりセッション参加承諾者抽選
9月28日	まちづくりセッション参加者通知・落選者通知送付
10月7日	「懇親会のご案内」送付
10月15～16日	「長岡京 市民まちづくりセッション」開催

(3) 費用

評価できる点	・ 意識調査と参加依頼書を同封したため、郵送料が二重に掛からなかった点
改善が必要な点	・ コンサルタントの経費が掛かる点

◆課題解決の方向性

初めての取り組みであったため、スケジュールや役割分担などについて、十分な打ち合わせができなかった。また、ワーキングのスタートも遅くなり、情報共有が難しかった。事務局は実質1名で、負担が大きかったため、テーマ設定やプログラムの作成等で、実働できるスタッフが必要である。併せて企画・運営の時点で、経験のあるコンサルタントともっと打合せを重ね、進めるべきであった。当日の人員は、運営上最低限であったが、可能な範囲である。

経費については、コンサルタントの人的経費が負担であるため、他市の市民討議会の多くで採り入れている青年会議所や市民を交えた「実行委員会方式」による開催も考えられる。その場合にも、職員は勤務時間であったり、時間外手当が支払われたりすることとの兼ね合いから、スタッフの報酬については課題である。しかしコンサルタントの経費に比べれば安価に実施できるものと思われる。

3. 参加者について

「無作為抽出」で参加者を募り、「有報酬」で参加してもらい、本市で初めての取り組みであった。

(1) 無作為抽出方式の人選

評価できる点	・ 無作為抽出の手法について参加者の評価が得られた点 ・ 年齢層も幅広く、新たな市民が参加できた点
改善が必要な点	—

(2) 参加者への報酬

評価できる点	・ 市政への参画のきっかけとなった点
改善が必要な点	・ 場合によっては、正当な額の設定

(3) 参加者人数

評価できる点	・ 予想以上の参加承諾を得た点 ・ 「別の機会」なら可能という人も多くいた点
改善が必要な点	—

(4) 参加者の反応

評価できる点	・ 参加者の満足度、今後の参加の意欲が高かった点 ・ 「勉強になった」という感想が多く、参加による研修効果もあった点
改善が必要な点	—

◆課題解決の方向性

まちづくりセッション参加者アンケートで、満足度が高く、参加意欲も高かった点は、予想を上回る大きな成果であった。普段は自ら手を上げない市民が、「きっかけ」を必要としているということの表れと考えられる。また、「勉強になった」という意見には、普段、行政が何をしているのか知らない市民の存在が浮き彫りになり、行政として、今後の情報提供のあり方を見直していく必要性も感じた。このようなきっかけで、行政内部でも課題や情報の整理が行われることが期待される。

(ひいては、それが質の良い情報提供につながる。)

参加報酬額については、特に若い人や普段働いている人が、初めて参加するには動機づけになるものである。また、今回のまちづくりセッションにおいても、ボランティアではないという意識から「責任感」のようなものが感じられ、積極的に意見を述べ、役割を担い、提案に結び付けようとしていたのが印象的であった。2日間で6,000円という、労働対価としてはそれほど高くない日当でも参加しようとする市民は多くいるということ、また当日欠席者が0であったことを考えると、価値があると考えられる。